



平川 富章
ひらかわ とみあき
(50分)
水曜会

**地域のまちづくりを支える
仕組みづくりは**

問 持続可能な地域コミュニティの形成に向けた考えは。

答 地域活動の担い手不足や負担感は続いており、課題解決には至っていない。複雑化した組織のスリム化や事業の見直しなど検討をしている。



加藤陽一郎
かとうよういちろう
(55分)
水曜会

学校体育施設の地域利用は

問 スポーツ団体などの練習場所が不足しているという声を耳にするが利用状況は。また、予約管理などの業務を民間事業者や地域団体に委ねる考えは。

答 昨年度の各種団体の使用率は、小学校体育館69・9%、グラウンド57・7%、中学校体育館

介護人材の確保は

問 本市の取り組みは。

答 介護職のイメージアップなどに取り組んでいる。また研修に係る費用の補助を行うなど、職員のキャリア形成を支援している。

耕作放棄地対策は

問 市がどのように支え、広げていくのか。

答 農地継承等に取り組み、農地利用のマッチングも進めている。

72・8%、グラウンドの使用実績はほとんどない。指定管理者制度などの活用は考えていない。

福山市総合防災訓練は

問 神辺町の中条学区の三谷地区が孤立した想定で、孤立集落に対する訓練が実施されたが。

答 約4カ月前から、ワークシoppなどを通じて、本部運営に係るチェックリストの作成を行ってきた。ドローンによる被害の迅速な把握や物資輸送について、一連の動きを確認することができた。



橋高 行格
きわたか ゆきのり
(50分)
水曜会

松永地域からの産業団地立地の要望書への受け止めは

問 昨年11月、松永地域の自治会連合会長の連名によって、市長に対し産業団地立地の要望書が提出されている。地域課題への危機感が具体的な行動として表れたものと考えるが、市長の受け止めは。



千葉 真一
ちば ましひと
(50分)
水曜会

放課後児童クラブは

問 利用児童数は年々増加しており、教室の不足や過密状態について見たり、聞いたりするが本市の取り組み状況は。

答 62教室が余裕教室で運営をしており、2教室については、特別教室なども活用している。今後教育委員会や学校と連携し、過

答 松永地域は、交通の要衝であり、物流の拠点性の高い地域である。さらなる拠点性の向上をめざし、今津高西線の新規事業化などに取り組んでいる。要望は、将来の発展の可能性を秘めた松永地域に期待するものと受け止めている。また、松永の中心部では、松永駅周辺にぎわい再生ビジョンに基づき、地域と意見交換を重ねながら、官民が連携して地域の拠点づくりに取り組み、松永駅北口のにぎわい再生が進んでいる。こうした動きも要望を後押ししているものと受け止めている。

密状態の改善に取り組んでいく。

手ぶら登園は

問 紙おむつや紙エプロンなどが定額で使い放題となるサブスクリプションサービスの実証実験を実施した。市立全園への拡大と私立園への支援の可能性は。

答 全公立保育施設への導入の可否については、実証実験後の負担軽減などの検証結果を取りまとめる中で判断をしていく。私立保育施設には、まずは検証結果を共有していきたいと考えている。